

執筆者紹介（掲載順）

執筆者 ①大学院における所属と職位、②専門分野、
③大学院における主な担当科目、④教育・研究業績、地域貢献などの紹介

飯倉 章 ①人文科学研究科 教授
②国際関係論、国際関係史、表象文化研究
③日本文化研究（歴史）A、国際日本学研究指導Ⅰ～Ⅵ
④主な研究業績（単著）として、『第一次世界大戦と日本参戦』（吉川弘文館、2023年）、『1918年最強ドイツ軍はなぜ敗れたのか』（文藝春秋、2017年）、『第一次世界大戦史』（中央公論新社、2016年）、『黄禍論と日本人』（中央公論新社、2013年）、『日露戦争諷刺画大全』上・下巻（芙蓉書房出版、2010年）など。

遠藤十亜希 ①国際アドミニストレーション研究科 教授
②政治学
③国際政治経済、政治リスク分析、アメリカ政治・経済・社会
④日本及び米国の大学において、国際移民、日本や欧米の移民政策について研究活動を行っている。

小川 智子 ①福祉総合学研究科・福祉総合学部福祉総合学科 教授
②ソーシャルワーク専門職教育
③福祉総合学研究科：福祉社会特論（社会福祉教育）、福祉社会演習
福祉総合学科：ソーシャルワーク演習、ソーシャルワーク実習指導、ソーシャルワークの理論と方法Ⅲ・Ⅳ
④「（研究ノート）集団指導に関する研究―集団指導の概念枠組みと学生の能動性に焦点をあてて―」『日本社会福祉教育学会誌』（2021）など、日本社会福祉学会会員、日本社会福祉教育学会会員。

鈴木 一徳

- ①国際人文学部国際交流学科 助教
- ②日本語教育、第二言語習得、心理言語学、応用言語学
- ③日本語学概論B、日本語の語彙・意味、日本語の音声、日本語教授法（コースデザイン・評価）、言語・非言語コミュニケーション論
- ④鈴木一徳. (2024). 「過剰使用される『の』の傾向―多言語母語の日本語学習者横断コーパスを用いた母語別・品詞別分析―」『中央大学人文研紀要』108, 1-13. 中央大学人文科学研究所.
鈴木一徳. (2024). 「英語の補文標識選択―第二言語学習者のデータに基づく予備的調査―」『英語学・英語教育研究』29(43), 91-106. 日本英語教育英学会.
鈴木一徳. (2022). 「遊離数量詞を含む日本語の自動詞文の容認可能性―干渉する付加詞の影響の検討―」『語彙研究』19, 46-56. 語彙研究会.
鈴木一徳. (2020). 「日本語の自動詞文における遊離数量詞の解釈―中国語を母語とする日本語学習者のデータから―」『中国語話者のための日本語教育研究』11, 142-156. 中国語話者のための日本語教育研究会.
鈴木一徳・平川真規子. (2019). 「日本語母語話者およびスペイン語母語話者による心理形容詞の解釈―Is the lecturer *bored* or *boring*?―」白畑知彦・須田孝司（編）『第二言語習得研究モノグラフシリーズ3：言語習得研究の応用可能性―理論から指導・脳科学へ―』（pp.1-29）. 東京：くろしお出版.